



激しいかゆみを伴う皮膚の感染症「疥癬」。
世界で年間2億人以上、日本では8~15万人
が感染しているとみられ、高齢者施設などで
集団発生を起こしやすい。どんな症状でどの
ような治療法があるのか専門家に聞いた。

疥癬

疥癬は猛烈なかゆみが起きる皮膚疾患です。その程度は尋常ではなく、夜はかゆみで寝付きが悪く、夜中にも目が覚めます。日中も体をボリボリとかかざるを得ず、学業や仕事にも支障を来します。かゆみを物語るかのように体や手足には無数の細かい引っか

引つかいたような筋状の皮疹です。ヒゼンダニは疥癬トンネルの端に住んでいます。口と前脚が黒いため、トンネルの端に小さく黒点として見えます。目の良い人なら疥癬トンネルの先端部に住むヒゼンダニが肉眼で見えます。あ

り。大村智先生が開発し、2015年のノーベル生理学・医学賞の受賞につながった薬で、1週間間隔で2回飲むと疥癬は治ります。

塗り薬はスミスリン(一般名・フェノトリン) ローションがあります。スミスリンはもともとアタマジラミ症の治

う「ピンポン感染」が起きる可能性もあり、一斉に治療をしたほうが良いこともありま

す。ただ、今や治る病気です。のでご安心ください。

(兵庫県医師会、和田康夫 赤穂市民病院皮膚科医師)
◇第1、3、4日曜に掲載

ダニ原因、飲み薬と塗り薬あり

き傷が生じます。

原因はヒゼンダニという微小なダニです。わずか0.4ミリの大きさで、人間の皮膚の中に住み、皮膚の中に巣穴を掘り、卵を産み付けていきます。巣穴は「疥癬トンネル」といい、手や足に多くみられ、長さ5ミリ前後で、針先で

る女子中学生は手に疥癬トンネルがあるのに気づき、針先でダニを掘り出して病院に持参してくれました。

疥癬を治療するには、寄生したヒゼンダニの駆除が必要ですが、今は良い治療薬ができました。飲み薬と塗り薬があり、飲み薬はイベルメクチ

治療として用いられていますが、疥癬治療薬としても認可されました。同じく1週間間隔で2回塗布するとはほとんどの場合治ります。

疥癬は接触感染なので、同居する家族にもうつることがあります。治療のタイミングがずれると家族内でうつし合